

高齢者見守りサービスで 生活の異変をすぐに察知

高齢入居者の受け入れで不安になるのが、体調の異変による宅内事故や死亡。見守りサービスを導入すれば未然に事故が防げて安心だ。

通報ボタンや電力使用量の 監視で、異変を早期発見

東京都足立区・葛飾区の低家賃物件を中心に賃貸管理を手がけるメイクホーム（株）の関連会社、エース・リアルエステートでは、2つの見守りサービスで安全対策を講じ、高齢入居者を積極的に受け入れている。一つ目は緊急対応サービス。セキュリティ会社と提携し、首にかける救急通報ボタンを入居者に提供。体調の異変を感じた時にボタンを押すと駆けつけてもらえるので、一人でも安心して

て暮らすことができる。

「入居者様が倒れた際は、その動きを察知して自動通報され、即座に『〇〇さん、どうされましたか』

と部屋のスピーカーから呼びかけます。応答がない場合は親族、ヘルパーの会社、弊社の3カ所に連絡が入る仕組みです」と石原社長。

二つ目は監視サービス。使用電力のデータを24時間監視し、通常と比較して異変を察知したら、同様に3カ所に連絡がいく。本人に連絡が取れない場合は、救急車に玄関のキーボックスの番号を伝えて入ってもらうこともあるという。

「万一入居者様が亡くなってもほとんどなく駆けつけられるので、孤独死扱いにはなりません。死亡に気付かずに放置し、物件価値を損ねるような事故も未然に防げます」

同社では月額5000円の入居者負担で見守りサービスを提供。現在700人以上が利用している。



メイクホーム株式会社
代表取締役社長
石原 幸一 さん

5つの安心を提供する 「シニアライフサポート」

東海地方で8万5000戸を管理する（株）ニッショールでは、高齢者見守りサービス「シニアライフサポート」で以下の5つの安心を提供している。

- ①毎日指定された時間に電話をかけ、音声案内で体調を確認。家族にメールで報告する。
- ②居室にホームセキュリティを設置。火事や防犯面に加え、ライフ監視センサーで24時間動きがなかった場合は警備会社が駆けつける。
- ③事前に警備会社が自宅の鍵を預



高齢者向け見守りサービスの例

- ①首からかけて携帯できる救急通報ボタン
入居者は体調が悪いなど何か起きたら、救急通報ボタンで連絡。セキュリティ会社の警備員が駆けつける。
- ②転倒・急病を早期発見する生活監視センサー
トイレなど入居者が必ず通る生活導線にセンサーを設置。一定時間動きがない場合は異常信号が送信される。
- ③安否・体調を定期的に電話・訪問して確認
定期的に自宅訪問をしたり、毎日同じ時間帯に安否を音声電話で確認するなどして、その結果を指定先に報告する。

かり、ペンダントタイプの救急通報ボタンとメール受信者の要請で警備会社が駆けつける。

- ④コールセンターで食事・介護などの相談に対応する。
- ⑤介護施設への入居や住み替えもサポートする。

サービス提供がスタートして2年経つが、これまで孤独死はなく、駆けつけ対応で命が助かったケースが複数件ある。こちらもサービスへの費用は入居者が支払うため、オーナー負担はゼロ。現在オーナーに高齢者入居可の承諾を得た物件は約3万戸に上り、毎月増え続けているという。